

徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト 事業報告



2014年11月15日～2016年1月27日

申請者：徳之島3町（天城町・伊仙町・徳之島町）



公益財団法人どうぶつ基金では鹿児島県奄美群島の世界自然遺産登録への取り組みとして、行政と協働して、猫の捕食によるアマミノクロウサギ絶滅の保護措置のために徳之島に生息する全ての猫（推定3000頭）に、さくらねこTNR無料不妊手術を行うことになった。徳之島は国の特別天然記念物アマミノクロウサギの生息地である。徳之島の山は2014年、国定公園に指定されているが近く国立公園に指定される見込みで、2年後までに世界自然遺産登録を目指している。しかし、その根拠であるアマミノクロウサギは徳之島にわずか200羽といわれており環境省レッドリストの絶滅危惧IB類（絶滅危機）に指定されている。

アマミノクロウサギと猫

環境省がアマミノクロウサギの幼獣の生息状況等をモニタリングするために実施しているセンサーカメラによる自動撮影調査において、ノネコがアマミノクロウサギの幼獣を捕食している場面が撮影された。不妊手術を施さないなどといった不適正な飼養や遺棄により、野生化した犬や猫が繁殖し、野生生物を捕食するようになり、今回のような重大な事態をもたらす結果となってしまった。

徳之島ごとさくらねこTNR

推定3000匹の島の猫すべてに不妊手術を施し“さくらねこ”にすることで、管理された猫と人とアマミノクロウサギが共存する島となり、結果、アマミノクロウサギなどの希少動物を守ることにつながり、徳之島は世界一自然に生き物に優しい島となることを目的とした。



【写真】
猫にくわえられたアマミノクロウサギ
(写真提供：環境省奄美自然保護官事務所)

アマミノクロウサギと猫の問題

- 第一 アマミノクロウサギ生息域に生息するネコの問題
- 第二 飼い猫への不妊手術を行っていないことによる捨て猫の問題
- 第三 ノラ猫の問題
- 第四 小動物の動物病院が1件も無い問題（プロジェクトが発足した2014年時点）
- 第五 アマミノクロウサギが推定200羽であり時間的猶予が一切無い点

問題点の分析

アマミノクロウサギ生息域には本来猫はおらず、そもそも徳之島には猫は生息していなかったことから、

- ① 捨て猫がノラ猫になり、ノラ猫が生息域に侵入していく問題
- ② 飼い猫の計画外の繁殖から、生息域への捨て猫問題

という2つの問題から、アマミノクロウサギ生息域に野生化したネコが生息しているという現状があった。

具体的解決策

第一の問題を第二、第三の問題が生んでいるという現状があるため、第一の問題である生息域の猫にだけ介入するのではなく、「ノラ猫」と「飼い猫」の問題への介入も並行して進めていく必要があると判断し、当事業では、「ノラ猫」も「飼い猫」も含む徳之島の猫全頭の不妊手術を実施することを目標とした。また、生息域の猫に関しては、従来のTNRのReturnではなく、Rehomeとして天城町の猫シェルターで飼育する方針となった。生息域の猫に関しては、2015年から環境省と天城町役場の企画課が協働し、捕獲と不妊手術及び、猫シェルターでの保護と里親探しを行うこととなった。



協働形態

TNRのうちの、“Trap”猫の捕獲保護、“Return”リターン、を3町役場が担い
 “Neuter”不妊手術、をどうぶつ基金が担う協働形態をとった。捕獲にかかる餌代や
 車の運搬費等は3町役場がそれぞれ負担し、出張手術の際の獣医療費、獣医師やどう
 ぶつ基金スタッフの交通費、宿泊費はどうぶつ基金が負担した。

広報活動の協働形態

当プロジェクトを島民の方々に周知するための、ポスター、チラシの作成はどうぶ
 つ基金が無償で行い、チラシの全戸配布や公共施設への掲示を3町役場が行った。
 また、動物愛護週間に合わせ、徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクトの取り組みを
 紹介するパネルを、どうぶつ基金が製作し、3町役場や生涯学習センターに展示した。

捕獲器の貸出

猫を捕獲する際の捕獲器を212台どうぶつ基金から3町に貸出をおこなった。



当プロジェクトで製作されたチラシ・ポスター



事業全体スケジュール

日程	会場	実施内容
記者会見H26/10/1~3	天城町役場	記者会見
第1回H26/11/15~22	徳之島高校農場（旧徳之島農業高校理科室）	537頭
第2回H27/1/25~31	徳之島高校農場（旧徳之島農業高校理科室）	641頭
第3回H27/4/16~21	旧徳之島町立神之嶺小学校下久志分校跡	251頭
第4回H27/6/14~19	天城町農業センター	233頭
第5回H27/11/5~9	天城町農業センター	314頭
第6回H28/1/24~27	伊仙町 旧民俗資料館	160頭
合計		2,136頭

参加獣医師数

ボランティア参加獣医師は交通費、宿泊費すべて自己負担

実施期間	委託獣医師	ボランティア参加獣医師※	計
第1回	4	2	6名
第2回	6	2	8名
第3回	4	3	7名
第4回	3	2	5名
第5回	3	0	3名
第6回	2	0	2名
延べ人数	20	9	31名



第1回徳之島高校農場（旧徳之島農業高校）



第2回徳之島高校農場（旧徳之島農業高校）



第3回旧徳之島町立神之嶺小学校下久志分校跡



第4回天城町農業センター



第5回天城町農業センター



第6回伊仙町旧民俗資料館



●手術前に全員で朝礼を行う



●行政のトラックで猫が運ばれてくる



●飼い猫や飼い犬の受付の様子



●手術前にケージに管理タグをつける



●安定剤、麻酔を打っていく



●抗生剤やワクチン、ノミダニ駆除を行う
腕には管理タグがつけられる



●毛刈りと耳カットを行う



●さくらみみ



●不妊去勢手術



●手術痕は約1cmのエキスパート獣医



●補液や目薬、消毒、耳掃除、術後ケア



●ハブに咬まれた傷など、怪我や病気が見つければできる限りの治療を行う



● 1頭ごとに手術器具を洗浄消毒



● 猫が手術を受けている間にケージを洗浄



● 術後の猫は一晩安静にする



● 手術翌日、捕獲場所にリターンする



● 手術ができない子猫は役場で保護し
次の出張手術の際に手術を行った



● KTS鹿児島テレビなど多くのメディアに
取り上げられた



●エコ

捕獲された猫の保護用に、役場にて手作りされたケージ。ジャガイモのサンテナを使用しているため、プロジェクト終了後はリユース可能なエコケージである。



●機能性

サンテナケージの上部は、木版2枚で蓋をしてあるため、安定剤を注射する際は、木蓋の隙間から、メッシュの板を差し込むことで猫をケージの端に容易に移動させることができ、猫のストレスを最小限にとどめることが可能。



●特色

サンテナケージの色は、町により異なる。水色は天城町、黄色は伊仙町、緑と黒は徳之島町の手作りケージである。

1日100頭近い猫の手術を行うため、切り離し可能な手術管理タグを使って、猫や処置内容を管理した。

●猫のリターン場所管理

手術を受ける猫が、どこで捕獲され、どのケージにいた猫なのか分からなくなってしまうように、赤い紐のタグは、ケージに付け、緑のタグは猫の腕に付ける。術後、通し番号を確認し、猫がいたケージに戻れるようにしている。

●処置内容の管理

ワクチンや抗生剤などの処置内容に過不足が内容、チェック項目を設けて管理する。また、ケタミンの払い出し量も記入する。手術が終わった猫をケージに戻す際に、腕についている緑のタグを回収し、パソコンで集計。1日の手術数や、オスメス、薬品の使用量を管理している。

<p>月 日 猫右腕</p> <p>No. 001003 <input type="checkbox"/>ノラ猫 <input type="checkbox"/>飼い猫</p> <p><input type="checkbox"/>伊仙 <input type="checkbox"/>天城 <input type="checkbox"/>徳之島</p> <p>マイクロチップ<input type="checkbox"/>済 <input type="checkbox"/>未済</p> <p><input type="checkbox"/>オス <input type="checkbox"/>メス <input type="checkbox"/>不明</p> <p>毛色 _____ : _____ ちゃん</p> <p>「 _____ 」</p> <p>「 _____ 」</p> <p><input type="checkbox"/>安定剤 <input type="checkbox"/>ケタミン ml.</p> <p><input type="checkbox"/>抗生剤 <input type="checkbox"/>毛刈り</p> <p><input type="checkbox"/>ノミ駆 <input type="checkbox"/>耳カット <input type="checkbox"/>尿出し</p> <p><input type="checkbox"/>堕胎 匹</p> <p>執刀医 自筆署名 _____</p> <p>最終確認 自筆署名 _____</p>	<p>月 日 ケージ用</p> <p>No. 001003 <input type="checkbox"/>ノラ猫 <input type="checkbox"/>飼い猫</p> <p><input type="checkbox"/>伊仙 <input type="checkbox"/>天城 <input type="checkbox"/>徳之島</p> <p>マイクロチップ<input type="checkbox"/>済 <input type="checkbox"/>未済</p> <p><input type="checkbox"/>オス <input type="checkbox"/>メス <input type="checkbox"/>不明</p> <p>毛色 _____</p> <p>猫名 _____ ちゃん</p> <p>管理者 _____</p> <p>携帯番号 _____</p> <p>_____</p> <p>(公財) どうぶつ基金</p>
---	---



●伊仙小学校特別授業の様子
環境課美延課長と佐上理事長が話した



●「動物の命と徳之島の自然について
考えよう」特別授業後の記念写真



●山口獣医師の手術見学
徳之島高等学校総合学科生物生産系の生徒



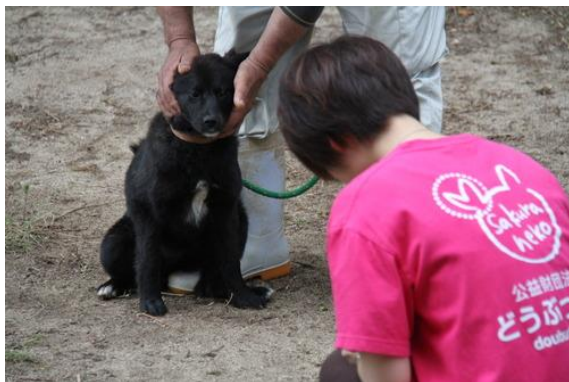
●佐上理事長の青空教室



●県獣医師によるマイクロチップの説明



●島の子どもたちが見学にくることも



● 飼い犬の不妊手術を有料で実施

徳之島には動物病院がなく、飼い犬に不妊去勢手術を受けさせることが困難であることから、野犬や捨て犬が比較的多い現状があった。そこで、第3回と第4回の出張手術の際に、徳之島3町の行政や住民の皆様からの強い要望に応え、計48頭の飼い犬の不妊去勢手術を有料で行った。価格はオスメス5000円。ワクチンノミ除け狂犬病予防は、各1000円。第5回からは、徳之島に初の動物病院ができたため、飼い犬の手術は実施していない。



● 徳之島保健所の犬に無料で不妊手術を実施

第4回の出張手術の際に、鹿児島県徳之島保健所協力の元、保健所に保護された犬6頭に無料で不妊手術を提供した。手術を受けた犬は、鹿児島県の動物愛護団体「Waco」によって、新しい飼い主に譲渡された。

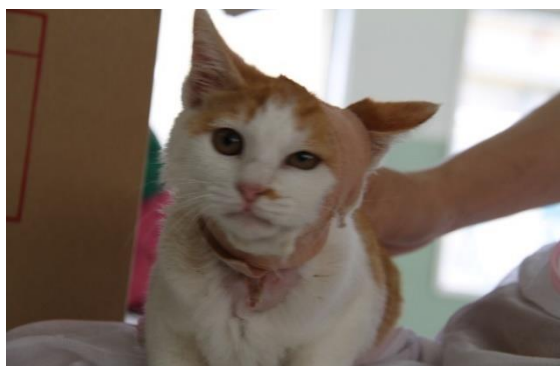
手術室に運ばれてきた猫が、怪我や病気を患っていることが多々ある。そういった場合は限られた機材の中で最善を尽くし、治療を実施した。下記にその一部を紹介する。



●横隔膜ヘルニアと避妊手術の同時手術
気管チューブで人工呼吸を行った



●ハブに咬まれた猫は計10頭近くいた



●ハブに咬まれた飼い猫
飼い主さんがテープを巻いてきた



●右腹部21針、左肩内10針、外11針縫合手術
を受けた猫。手術翌日から餌をよく食べた



●水腎症の手術。
野球ボール大に腎臓が肥大していた



●断脚の手術

猫を殺さずにアミノクロウサギを守る当プロジェクトの趣旨や方針に賛同し、全国からボランティア参加の獣医師やAHTが集まった。ボランティア参加の場合は、交通費や宿泊費はすべて自己負担にも関わらず、6回の実施で、9名の獣医師がボランティア参加した。獣医師同士の情報交換の場ともなり、当プロジェクトをきっかけに、地元でTNR事業を開始する獣医師や、再就職をした獣医師、TNRと保護犬専門の動物病院を開業する獣医師もいた。また、獣医師の他にAHTボランティア参加も複数名あった。



●緑のゼッケンが獣医師。第3回の出張手術時の写真



●ご家族で参加して下さった、平野獣医師。手術の間は地元のシッターさんに子どもを預かってもらった。参加の約1年後にTNRと保護猫犬専門の動物病院を地元小田原で開業。



●竜之介動物病院院長 徳田先生はボランティア参加後、地元九州で独自の無料不妊手術のキャンペーンを継続的に実施している。

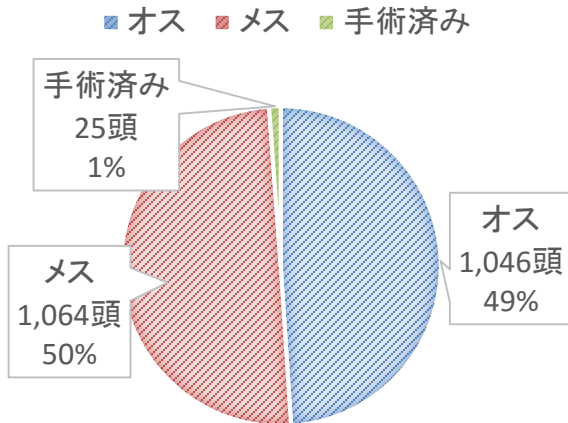


徳之島ごとさくらねこTNR事業 手術実績

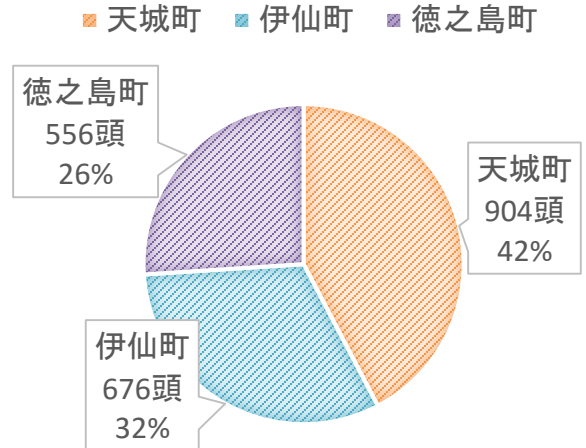
		オス	メス	耳カットのみ	耳カット済み	計
第1回	H26.11.17~21	250	283	4	0	537
第2回	H27.1.26~30	317	318	6	0	641
第3回	H26.4.17~20	117	128	1	5	251
第4回	H26.6.15~18	109	120	1	3	233
第5回	H27.11.5~8	174	137	2	1	314
第6回	H28.1.24~1.27	79	79	2	0	160
計		1,046	1,065	16	9	2,136

※「耳カットのみ」は、手術であったため、ワクチンノミ除けと耳カットのみ実施。

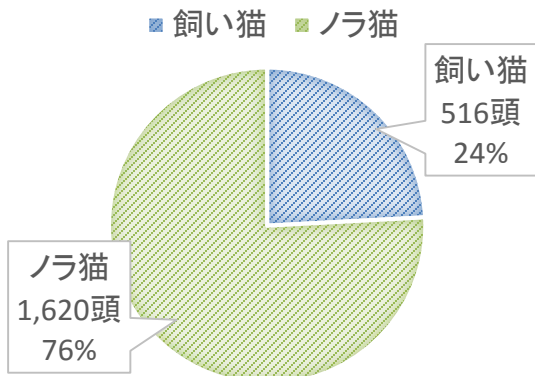
オスメス割合



町別手術数



飼い猫・ノラ猫割合



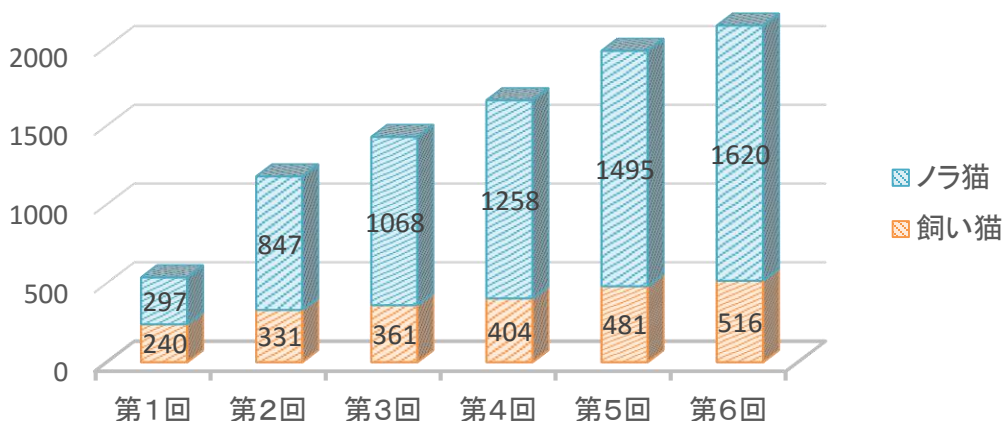
町別・飼い猫ノラ猫区分手術数

		実施期間	飼い猫	ノラ猫	計
天城町	第1回	H26.11.17~21	85	50	135
	第2回	H27.1.26~30	48	331	379
	第3回	H27.4.17~20	8	79	87
	第4回	H27.6.15~18	23	97	120
	第5回	H27.11.5~8	7	115	122
	第6回	H28.1.24~1.27	14	47	61
	計			185	719
伊仙町	第1回	H26.11.17~21	70	194	264
	第2回	H27.1.26~30	20	126	146
	第3回	H27.4.17~20	8	45	53
	第4回	H27.6.15~18	11	45	56
	第5回	H27.11.5~8	43	53	96
	第6回	H28.1.24~1.27	15	46	61
	計			167	509
徳之島町	第1回	H26.11.17~21	85	53	138
	第2回	H27.1.26~30	23	93	116
	第3回	H27.4.17~20	14	97	111
	第4回	H27.6.15~18	9	48	57
	第5回	H27.11.5~8	27	69	96
	第6回	H28.1.24~1.27	6	32	38
	計			164	392
合計	第1回	H26.11.17~21	240	297	537
	第2回	H27.1.26~30	91	550	641
	第3回	H27.4.17~20	30	221	251
	第4回	H27.6.15~18	43	190	233
	第5回	H27.11.5~8	77	237	314
	第6回	H28.1.24~1.27	35	125	160
	計			516	1,620

飼い猫ノラ猫別手術数累計

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
飼い猫	240	331	361	404	481	516
ノラ猫	297	847	1,068	1,258	1,495	1,620
合計	537	1,178	1,429	1,662	1,976	2,136

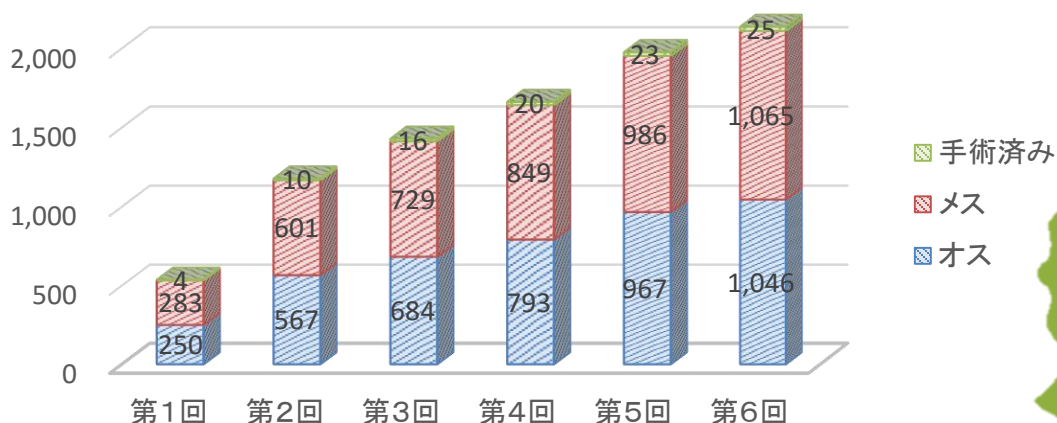
飼い猫ノラ猫別 累計



オスメス別手術数累計

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
オス	250	567	684	793	967	1,046
メス	283	601	729	849	986	1,065
手術済み	4	10	16	20	23	25
合計	537	1,178	1,429	1,662	1,976	2,136

オスメス別 累計



出張手術実施前には、各町役場のホームページや、3町で発行している広報誌に、プロジェクト実施予定を掲載し、飼い猫の手術申し込みや、ノラ猫の情報提供を呼びかけた。



きばし徳之島
週刊 水曜ガイド
 11,600部
 2015年1月28日 第86号 天城町・伊仙町・徳之島町
 発行：春 広告 TEL: 82-3900 FAX: 82-3901
 大島郡徳之島町亀津 7169 E-mail: harukoukoku@t1.tokunoshima.net

徳之島のネコ（飼い猫も！）全部無料不妊手術（TNR）実施中！！
 日時：平成27年1月26日（月）～30日（金） 午前9時～午後5時 まで
 場所：徳之島高校伊仙農場（旧徳之島農業高校）
 内容：不妊手術・三種混合ワクチン接種・ノミ、ダニ駆除を行います。
 ※各町役場に事前申し込みが必要です。
 ※猫は1日前より絶食で洗濯ネット（脱走防止）に入れて持ち込んで下さい。
 ※1月14日より野良猫の捕獲作業を開始します。飼い猫は室内に入れておいて下さい。
ボランティアスタッフ募集中！（作業の見学もできます）
 1月26日～30日の内、1日でも半日でもOK！
 ネコの受付、手術後のケアや器具の洗浄などお手伝い（無償）頂ける方は、各町に申込み会場までお越しください。ご協力、宜しくお願いします。

公益財団法人どうぶつ基金
 【主催】
 伊仙町環境課 ☎ 86-3111
 天城町民生生活課 ☎ 85-5336
 徳之島町民生生活課 ☎ 82-1111



当プロジェクトを成功させるためには、島民に当プロジェクトの存在と、実施目的を知っていただき、協力を得ることが重要であった。そのため、島民に向けた徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクトのパネルを作成し、平成27年の動物愛護週間に合わせ各町役場や、生涯学習センターなど多くの島民が足を運ぶ場所でパネル展を行った。



●徳之島町生涯学習センターパネル展の様子

●伊仙町役場でのパネル展の様子
伊仙町HPより

3 町からの感謝状

doubutukikin

徳之島ごとさくらねこ無料不妊手術事業に対するどうぶつ基金の功績と成果に対して天城町、伊仙町、徳之島町から感謝状をいただいた。



- 天城町役場にて、天城町大久町長が3町を代表して、感謝状贈呈式を行ってくださった。



- 感謝状



伊仙町環境課 美延 治郷

ここは、鹿児島から南に約480kmの小さな島。しかし約1000万年前からの先住動物「アマミノクロウサギ」や「トクノシマトゲネズミ」など、世界でここにしか生息していない動物や昆虫・植物など、多くの絶滅危惧動植物が島民と共生している。

近年、開発が進み先住の動物や植物の生息域が狭くなってきている。この人間による生活域の拡大に伴い、ノラネコや野犬の被害が深刻になってきた。世界自然遺産の候補地となっている奄美・琉球地域の中の「徳之島」という小さな島の大きな脅威として、その存在が大きくなってきた。

そのような中で猫の脅威に対応する術（すべ）について、約3年前から関係機関において議論を尽くしてきた。しかし、これという有効な策がないまま、終始議論だけの問答に嫌気がさしてきたところに、どうぶつ基金という団体の情報を得た。

早速連絡をとり、趣旨を理解していただくとともにその緊急性に共感していただき、対応していただいた。これまでに多くの処置数を上げることができ、すでにその効果が確認できるほどの状況になってきた。奄美・琉球の世界自然遺産登録に向け、更なる脅威の回避に努めるとともに、子や孫にこの豊かな自然を受継ぎ、猫も犬も人間も住みよい世界自然遺産の島でありたい。



獣医師 平野亜矢子

私はどうぶつ基金の協力病院に勤務していたことをきっかけに、徳之島での活動を知り、第2回と第3回の活動に参加させて頂きました。この活動で素晴らしいと感じたことは、徳之島の行政や自然保護団体、島民、どうぶつ基金、協力獣医師やボランティアなど、多くの人間が同じ目的のために協力していたことです。第2回では641頭、第3回では251頭と出張手術では沢山の猫の手術を行います。

手術頭数が多いのですが無理して安全性を疎かにしているわけではなく、しっかりとした事前準備と打ち合わせ、さらに作業分担を行うことにより、効率的にそして安全に手術を行うことができていました。また獣医師の立場から見ても参加している獣医師の技術は高く、まさに職人技のような手術が行われていました。各々が自分に出来ることを行い、協力して活動するということはとてもやりがいのあることでした。また殺処分問題など動物を取り巻く社会問題は暗く辛い話が多いですが、どうぶつ基金では真面目に、かつ楽しくを心掛けて活動を行っていました。動物福祉の活動を行っていくうえで意見の対立などもあるかと思いますが、参加しやすい環境作りや意見を言いやすい環境作りを行い、熱く議論を交わし、実行に移していく姿勢こそが結果につながっていると思いました。

現在、希少種保護の方法に関しては捕食者の排除（殺処分）が世界的なスタンダードであり、徳之島で行っているTNRによる方法に対して必ずしも賛成意見ばかりではありません。しかし、殺処分に頼らない方法で希少種保護が実現できれば、そのほうがよいのではないかと思います。奄美諸島の生物多様性を守るためにも、世界のスタンダードを変えるためにも「即行」「徹底」「継続」の精神で徳之島での取り組みを成功させてほしいです。



クロウサギも猫の命も守ろう

徳之島で無料不妊手術へ



徳之島市で26日、伊和町の伊和町立徳之島高等学校で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

無料で猫の不妊手術

徳之島3町と基金
島の希少生物保護を目的に
15年度末までに3千匹



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

猫の不妊手術事業始まる

初日86匹、5日間で約360匹予定
徳之島3町



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

クロウサギ・猫・ヒト共生を

第2回無料不妊手術開始
どぶつ基金と徳之島3町
初日265匹持込み



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

新聞 奄美 AMAMI-SHIMBUN

1月31日 土曜日
1999年創刊34周年記念（創刊号発行日）
日誌 1頁734号

クロウサギも猫も 「今ある命大切に」 どぶつ基金の佐上理事長



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

県内初猫の無料不妊手術

初日は117匹持ち込まれる



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

新聞 奄美 AMAMI-SHIMBUN

1月27日 水曜日
創刊34周年記念（創刊号発行日）
日誌 1頁730号

猫の不妊手術始まる

約700匹の施術予定
徳之島3町




徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。

南瀨目新聞

1月27日(火)
創刊34周年記念（創刊号発行日）
日誌 1頁730号

島ネコ3000匹丸ごと手術

不妊去勢 希少ウサギ守りたい
殺処分減へ導入増加



徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。徳之島市動物愛護センター長は、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見で、クロウサギと猫の不妊手術の無料手術の告知記者会見が開かれた。徳之島市動物愛護センター長（左から）と、伊和町長、徳之島高等学校校長、徳之島市動物愛護センター職員らが参加した。



世界自然遺産へ 生物多様性保持

徳之島ネコ対策 取組1年 先進事例に一転



【徳之島】徳之島ネコ対策は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島ネコ対策は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

クロウサギ保護 猫適正飼育にも貢献

TNR事業

徳之島どうぶつ基金に感謝状



徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

猫の不妊手術、きょうまで 希少種保護目的、164匹予定

徳之島どうぶつ基金

【徳之島】希少種保護目的で、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

猫の不妊手術での貢献評価 徳之島3町

どうぶつ基金に感謝状



徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島「さくら耳ねこ」増加

基金 TNR事業「継続が大事」



【徳之島】徳之島ネコ対策は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...

徳之島どうぶつ基金は、今年1年が経過した。取組が先進事例に転じた。...



toyokeizai.net/articles/~/93759

東洋経済

ONLINE

4月19日 (火)

| Tokyo Business Today | 四季報ONLINE |

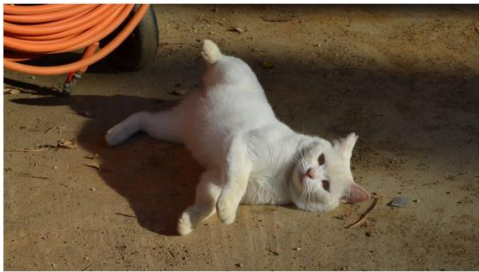
トップ ビジネス 政治・経済 マーケット キャリア・教育 ライフ 鉄道

ライブ > ペット

島猫3000匹の「不妊化」は、人間のエゴなのか ペット界の新星「猫」を取り巻く光と影<中>

駅 義則：東洋経済オンライン編集部 記者

2015年11月25日



徳之島の手術会場近くには「さくらねこ」。右耳の先端がV字カットされている

片耳の先端をカットされた猫を街中で見かけた人は、意外と多いのではなかろうか。これは不妊手術を終えていることの証なのだ。見分けをつきやすくするために切り込みをV字にすることが多いため、耳の形から「さくらねこ」と呼ばれる。飼い主のいない猫のお守りとして、全国各地に広がっている。

3回連載の第2回は、鹿児島県南端の徳之島の猫を一緒にさくらねこにする取り組みを通じ、洋の東西を問わない人と猫との関係について考える。

徳之島は鹿児島県の奄美群島に属する離島。約2万5000人が住み、徳之島町、天城町、伊仙町の3つの町から成る。日本の医学界に旋風を起こした徳洲会や、かつて長寿世界一に認定された泉重千代さんでも知られる。

この徳之島では猫の野放しが一般的で、今年6月までは小動物向けの病院さえ存在しなかった。そんな徳之島で、島内のすべての猫に不妊手術を施す前代未聞のプロジェクトが進んでいる。

すべての猫に不妊手術を実施

プロジェクトの主体は、公益財団法人「どうぶつ基金」（兵庫県芦屋市）。2014年11月に開始したこのプロジェクトの目的は、約3000匹いるとみられる島のすべての猫を不妊手術をすること。世界自然遺産認定を目指す上で不可欠な要素であるアマミノコウサギが猫に捕食されて絶滅の危機に瀕していることから、3町の依頼で実現した。

事業名は「徳之島ごとさくらねこ一斉TNRプロジェクト」。TNRは捕獲（トラップ）、手術（性を中立にするニューター）、放出（リターンやリリース）の略。自然の摂理には反するが、子猫が生まれて遺棄や虐待、殺処分されるのを止められる。手術後の猫も糞尿の臭さやがらぎ、喧嘩する率も小さくなる。何より一代限りだと分かれば、猫を嫌いな人からの反感が薄まる。



徳之島の位置（徳之島町役場のサイトより）

島猫3000匹の「不妊化」は、人間のエゴなのか ペット界の新星「猫」を取り巻く光と影<中>

駅 義則：東洋経済オンライン編集部 記者

2015年11月25日

筆者が徳之島にいた11月7日は、第5次手術の3日目。気温28度という暑さの中、まず目に入ったのは特設集積のシャカイを出入する猫を改造したケースが作業場の隅に並べられていた。中には、猫が入っている。高層の空いた手術会場、最初のテーブルでは獣医師がケース外から麻酔薬を投与する。手術に入る前の麻酔薬を打つことと人らしいないないため、注意深く目を凝らしながら麻酔薬の注入に注視している。麻酔が効いたのを確認すると猫が出し、ノミ取り薬や抗生剤、ワクチンを行う。次のテーブルでは手術する部分の毛をバリカンで剃る。オスは生精嚢周辺、メスは下腹部。そして耳の先端をV字カットし、傷口をほんだごで消毒する。麻酔が見えるが、手術済みの証としてマイクロチップを埋め込んだとしても、麻酔薬の効果が数分を待たせなければならない。現状ではこのやり方、視覚的に最も効果的だ。

「神楽」の連続、獣医3人で1日108匹

そして、腕立ち車にある手術台に固定される。オスは睾丸の間にカミソリを入れて精嚢を、メスは下腹部を切って精嚢と子宮を摘出する。傷口はわずかに1センチ前後で出血はほとんどない。縫合には自然に癒える糸を使う。手術の時間は長くても10分程度。

最後のテーブルでは、耳の掃除や目薬をさすなどのケアをする。麻酔が効いている猫、猫たちは神楽に似ている。その時、ケースに入れられて翌日まで検査まで、飼い主の待つ場所待たせられる。まさに神楽の連続だ。



手術場の奥に積み上げられたケース

島猫3000匹の「不妊化」は、人間のエゴなのか ペット界の新星「猫」を取り巻く光と影<中>

駅 義則：東洋経済オンライン編集部 記者

2015年11月25日

どうぶつ基金の専任理事長は「このノウハウや技術は世界最先端」と胸を張る。獣医師は国内内外の手術経験が豊富な葛原剛の山口武雄氏に、その数2人を入れた3人。島内の職人やパートからなる現地スタッフと連携して、この日1日だけで108匹を手術した。

時には「急患」も入ってくる。麻酔のハジに腹部を痛めた子猫が運び込まれ、40針を縫った手術によって一命を取り留めた。重傷千代さんにちなみ、長生きを願って「しげちゃん」と名付けられている。

「無料」の神通力で1976年手術

第5次手術が完了した8日までに手術が済んだ猫は1976匹。申元による内訳は野良猫49匹、野良猫149匹だ。これだけの数がまとまったのは、すべて無料だからだ。猫にけがされたら修理料など、生かすのが難しいのに「餌い猫」ではなく「ノロ猫」だとされたものが大半だった。各町の条例に基づき徴収される飼育費500円を喰い込むことが多かった。

6月に開業した島内初の動物病院は、オスの手術に1万9440円、メスは2万7000円かかる。ワクチン代などは別。この基金を通ずると、どうぶつ基金が2000匹弱に実施した医療行為の額は約6480万円となる。佐上氏は成功した起業家で、犬猫のTNR活動に古くから携わってきた。2006年に、ボランティア仲間や同業の会長だった山崎に乞われ理事長に就任。彼は青森から南は石垣まで不妊・去勢の出張手術を行い、行政による殺処分減にも寄与してきた。



手術後の猫を放しに行く軽トラに乗せてもらった。ハンドルを握る姿は都立衛生学部の米田博久・部長補佐による。島の方は「基本的に放し飼い、不妊手術する猫も多かった」。メス3匹を返して群の感染源を解消する小鳥を返すのが前編記事などで確認されているものの、「そこへ入っている存在」に過ぎなかった。

米田氏は一斉TNR実施の理由を「希少種のアマミノコウサギを守りたいという住民の願いが強かった」と語る。

9日に天城町役場で行われていた選抜投票式でも、大久保町長が「クワコウサギ保護の効果が目に見えた。（TNRが）主として死すれば世界遺産登録に向けた大きなヤマを越える」と、今後も協力を続ける意向を示した。島

佐上理事長は「3000匹の一斉TNRは世界でも初の試みだが、島の繁栄力は顕著に落ちた。そこで手術開始後は毎年追加の予算配分」と力説した。2016年度末までに手術を3回続け、残り約1000匹をさくらねこにする計画だ。

島猫3000匹の「不妊化」は、人間のエゴなのか ペット界の新星「猫」を取り巻く光と影<中>

駅 義則：東洋経済オンライン編集部 記者

2015年11月25日

ここまで読んでみて、徳之島の一斉TNRは愛護精神ではなく「世界自然遺産」が目的で、麻酔が効いていると感ずる人も多いだろう。動物、動物を殺処分する「殺処分」は「殺処分」で済むのが目的で、麻酔が効いていない猫も殺処分されたのが多い。

しかし、それは単に麻酔が効いていないだけで、国立国会図書館蔵書目録による論文「海外における繁殖管理をめぐる状況」（2014年9月発行）「麻酔と麻酔」シリーズ30号）によると、ドイツでは国内30か所以上を自然動物保護局が管理しているが、麻酔が効いていない猫が殺処分されたのは繁殖管理として受け入れを拒絶される。

その先があるから、ドイツは人間の繁殖管理から一旦上軌道したところにいる犬や猫を殺処分とされ、飼い主の無知から守る合法的に殺処分される。管理できない相手には殺処分の。年間約40万匹、6.65万匹が殺処分されている高層を保護団体もあるという。

ドイツと徳之島、どちらが猫に優しい？

連載第1回でも紹介したが、2013年度の日本の行政による殺処分（野良や事故死も含む）は約9万977匹、2万5370匹だ。一方、麻酔が効いていない猫を殺処分の統計によると、米国の動物保護局では2011〜2013年の殺処分統計から推定される殺処分数は約100万匹以上と推定されている。1970年代の年1200万〜2000万匹から推定される。

英国でも最大で年4.2万匹の犬猫が殺処分されている。と推定は推定する。日本と比べると、その数は殺処分される猫や野良猫が、麻酔が効いていない理由で殺処分された猫も殺処分されているという。

徳之島でも「そこへ入っている存在」に過ぎなかった。麻酔が効いていない猫が殺処分されたのは、麻酔が効いていない猫が殺処分された理由で殺処分された猫も殺処分されているという。麻酔が効いていない猫が殺処分されたのは、麻酔が効いていない猫が殺処分された理由で殺処分された猫も殺処分されているという。

手術の現場で、麻酔が効いていない猫は、目を開いていて、人間のエゴのために、子猫を殺す権利を奪われることに抗議しているようにも見える。

しかし、麻酔と麻酔が効いていない猫は、目を開いていて、人間のエゴのために、子猫を殺す権利を奪われることに抗議しているようにも見える。

なんとが麻酔が効いていない猫は、目を開いていて、人間のエゴのために、子猫を殺す権利を奪われることに抗議しているようにも見える。

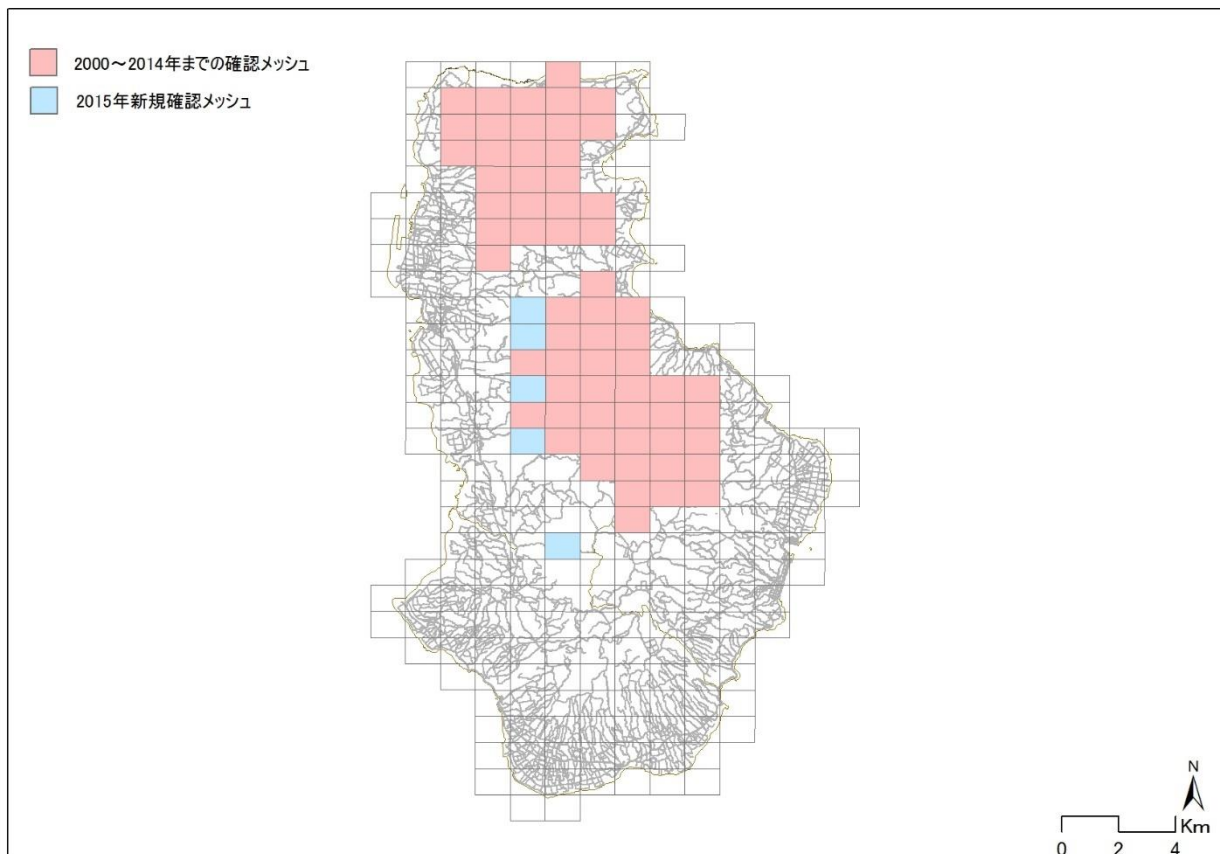
なんとが麻酔が効いていない猫は、目を開いていて、人間のエゴのために、子猫を殺す権利を奪われることに抗議しているようにも見える。

3町報告書から

プロジェクトが発足した、2014年には環境省徳之島自然保護官事務所の調べでは、イヌまたはネコにより捕食されたと思われるアマミノクロウサギは**9羽**いましたが、2015年は**1羽**のみに激減した。また、新規に**5つのエリア**で、アマミノクロウサギが確認された。

徳之島でのアマミノクロウサギ確認状況

年度	生息確認頭数	猫により捕食された頭数
2014年	おおよそ200羽	9件
2015年	おおよそ200羽	1件



● 1つのメッシュは1km×1km

情報提供：環境省徳之島自然保護官事務所

徳之島以外で、アマミノクロウサギが生息する奄美大島の各市町村に、保護処置としての取り組みについて、メールにて質問を行った。下記に各役場からの回答を記載する。

奄美市

アマミノクロウサギをはじめとした希少種への直接的な対策として、平成27年度に奄美大島5市町村が連携して減速帯を設置しており、当市においても市内の数箇所に設置している。また、平成25年度（2013年度）より環境衛生の改善、ノラネコの増殖抑制とそれによる希少種の捕食抑制等を目的としたTNR事業を実施。

TNRの手術実施頭数について、当市では平成25年度103頭、平成26年度246頭、平成27年度150頭、平成28年度は事業実施中です。

龍郷町

平成27年度に奄美大島5市町村が連携して、アマミノクロウサギ等希少動物生息域内の道路にロードキル防止対策として、減速帯、注意看板の設置、路面印刷を行った。

ロードキル防止の普及啓発活動を実施。

宇検村

2013～2015年間の飼い猫TNRに関しては、宇検村での実施はないが、県獣医師会の助成事業で行った。その関係で、正確なTNRの数値は把握していない。2016年度については、宇検村主体でのTNR事業実施している。目標頭数 飼い猫以外で、50頭。

その他、主要林道への減速帯設置も実施済み。（湯湾岳付近）

大和村

無回答

瀬戸内町

回答拒否

奄美大島アマミノクロウサギ死因

奄美大島	2013	2014	2015
交通事故	16	8	19
ノイヌ・ノネコ	9	9	7
その他	27	40	42
合計	52	57	68

情報提供：奄美自然保護官事務所

当プロジェクトでは、猫による希少動物保護を目的とし、飼い猫もノラ猫も含めた島の猫全頭への不妊去勢手術を行う大規模なTNRを短期間で実施した。日本では、TNRは住宅地の猫の苦情対策として行われることが多く、希少動物保護目的には有効ではないという意見もあるが、どうぶつ基金では、下記の条件を満たせばTNRは成功すると考えている。逆に言えば、このどれかが欠けているTNRは、失敗に終わると言える。

どうぶつ基金が推進する

さくらねこ TNR とは

即行

スグやる

猫は一度の出産で5~7匹の子猫を産み1年に3回出産することができます。生まれた子猫は6か月たつと妊娠が可能な年齢になり孫猫を産みます。TNRをゆっくり行っているのは、猫の繁殖スピードに追いつけません。

徹底

全部やる

90%の猫にTNRをしても、残った猫からあつというまに増えてしまいます。だいたいやって満足するのではなく、100%の猫にTNRを行うことが大切です。

継続

続ける

100%を目指してTNRを行っても、捕獲もれや新参者が見つかります。その都度、未手術の猫を見つけ、素早く対応していく管理体制を維持できれば、殺処分ゼロ、苦情ゼロは実現可能です。

第5回目の出張手術のあたりから、TNRのために捕獲器をしかけても、半分以上さくらねこが捕獲されてしまう状況となった。また、当プロジェクト発足時には、1件も無かった小動物の動物病院が、2015年に1件新設され、2016年は徳之島内にさらに開業する見込みことになり、継続的なTNRを島内で行うことが可能となった。したがって、どうぶつ基金と徳之島3町での「徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト」は全6回の実施を持って終了となった。





公益財団法人どうぶつ基金

天城町・伊仙町・徳之島町